

理事長の頭の中

Chairman of Chitosekai Group
by Hiromasa Hidari

過去の頭の中

「頭の中」は2006年からスタートしました。抜粋特集として共有します。ぜひ、いきいきらいふを千歳会と変換して、お読みください。

VOL.152. 2019. 3月号

「第8回介護甲子園」

スイッチON!!花粉が年々ひどくなる。。加齢とともにきつくなってるのか。。アレルギー抑える薬飲まないとかツイ。。暖かくなることはうれしいんですが。

さて、2月21日に介護甲子園第8回が無事に開催できました。一步また前進させてもらいました。なぜ介護甲子園を続けているのか。僕は、介護職はブランドになると思っております。そうなるべきであり、まだまだ、業界が19年と浅いからこそ、カリスマ介護士や憧れる介護職員が、すくない。しかし全国規模で見れば、たくさんの介護職員が魅力ある背中を見せてくれている。そんな彼らをフォーカスすることで、背中を見た次世代や現役の介護職が、私もあんなふうに頑張りたい!そうおもって、憧れられる職員をどんどんスポットライトに当ててあげたい!その結果、いつか自分を介護する、僕のベットの隣に立つ職員が、介護甲子園を通じて、あの先輩に憧れて介護業界に入職しましたといってもらいたい。目がキラキラ輝いた子たちが、僕の最後を見送ってほしい、そんな思いで、8回を続けさせてもらってます。

当日の壇上に上がってくれる全国のファイナリストたち。最初の動機は、いろいろあると思います。初期の介護甲子園は、知名度もなく日本一を目指すことで何が目標になるのかエントリーされた事業所さんたちは悩んだと思います。

当時の中には、経営者の無茶振りでエントリーしてみたものの。エントリーシートは管理者が勝手に書いて、応募したら二次選考を通過してしまった。。そして、一分間動画で事業所の特色を伝えることに。初めて、現場スタッフは巻き込まれ、説明を受け忙しい時間の中、作品を作る。そして、まさかのファイナリストに。全国の6事業所に選ばれる、当時は2000人の日比谷公会堂。そこで15分間の想いのこもったプレゼン。

2ヶ月前から、責任感の中、仕事終わりの後に、職員の方たちは15分原稿を考える。その過程で、経営者の想いや、創業の苦労話、理念、社員の入社動機なのでたくさんの関わりから自らが主役であると認識する。そして、前日のリハーサル舞台裏では、2000人を想像し緊張し、やらされ感たっぷりの表情で壇上。しかし、全国を代表して背中を見せる介護職として、当日どんな表情表現をするのか、自らの責任と考え方をみつめ、改めていく。そして、当日、2000人の拍手喝采とともに、舞台裏へ、緊張からの開放と達成感から、怒涛の涙。感涙。初めて、そこで成長体験をし、魅せる介護職員へと進化していく。介護甲子園では、成長の機会と舞台をつくり、感動することで、成長してくれれば、。

いつか僕も通る老いという道。僕たち介護職は、人生のインフラ業、。育てた相手は僕たちに何を返してくれるだろうか。僕たちの鏡、それより前に、僕たちこそインフラ業の鏡。介護職はブランドなんです。



フェイスブック始めました。
お友達申請お待ちしております。

社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

